



徳成寺

寺比かわら版

第148号 2019年4月



いつもありがとうございます。住職の大山です。

突然ですが、皆さんは「あるがままに心を開いて」暮らして

いますか？「あるがままに心を開く」という言葉はとても短く

簡単な言葉なのに、いざやろうとすると相当難しいかも知れません。

何かが思い通りに行かない時、誰かが言うとおりにしてくれない時

つい、それじゃあつまらんとか、けしからんと思ってしまうのではない

でしょうか。そこにこそ人間の苦悩があります。かつてビートルズは、

「Let it be」という曲を歌いました。この言葉を智慧の言葉だと言っています。

今なら「あるがままに心を開いてごらん」と私は訳したいと思います。

何かと戦う限り、心の平和は得られません。あるがままに心を開いて

武装解除すれば、本当に尊いものが見つかるはずですよ。

発行責任者

住職

大山健児

坊守

大山ひとみ



大山超世の耳を澄ませば



いつもお世話になっています。長男です。

個人的な話ですが3月は母方の祖父の3回忌でした。あっという間に来たな、という印象です。祖父がお世話になっているご住職が良い話をされていましてので紹介します。そのご住職曰く、ご法事の都度「あっという間に年忌法要」になったと耳にする中で、時間とは相手との関係性の上で生じる概念である。あっという間と感じるという事は、例えば、忙しさを理由に時間を意識して活動することが難しい証拠であり、だからこそ節目節目で儀式を行い、丁寧な暮らしを意識することが重要であると仰っていました。「心を亡くす」から「忙しい」と言ったりしますが、忙しさの中にも気にかけてくれる誰かがいることを忘れずに暮らして行きたいものです。写真は節目と言えればやっぱりこの人でしょう。小淵恵三さん。